Java

参照型の構造とメソッド作成



オブジェクト指向とデータ型

Javaの特徴であるオブジェクト指向

を理解するには

Stringなどのデータ型を深く理解する必要がある

データ型

1 整数:1、2、3、0、-1、-2、-3 など

データ型名称	説明
long	兆を超える数字。ビッグデー タなどに使われる。
int	21億くらいまでの数字。 (最も一般的に使われる。)
short	3万くらいまでの数字。 (ほとんど使わない。)
byte	8bitの符号付整数(-128〜 127)を格納。

2 小数:1.1、0.5、3.14 など

説明
通常はコレしか使わない。
32bitの単精度浮動小数点数 を格納。

小

データ型

3 真偽値:true、false

データ型名称	説明
boolean	通常はコレしか使わない。

4 文字:a、あ、1など

データ型名称	説明
char(キャラ)	1文字だけのもの(出力する際は、 シングルクオテーションで囲む)

5 文字列: abc、あいう、123など

データ型名称	説明
String	1文字以上の文字(=文章)。(出力する際は、ダブルクオテーションで囲む) ※実は、文字列は、1文字ずつのchar型を別々に処理した後に、くっつけて文字列(文章)に している。

データ型

プリミティブ型(=基本データ型=実体)

1 整数

2 小数

3 真偽値

データ型名称

long

int

short

byte

データ型名称

double

float

データ型名称

boolean

4 文字:

データ型名称

char(キャラ)

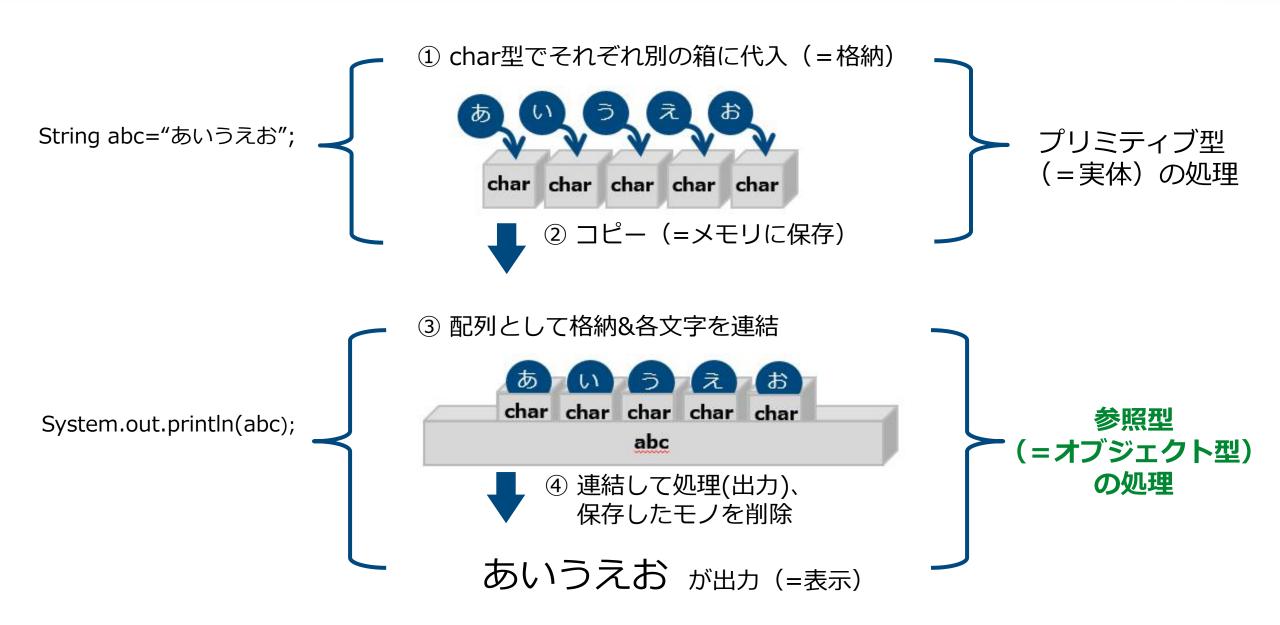
参照型(=オブジェクト型)

5 文字列

データ型名称

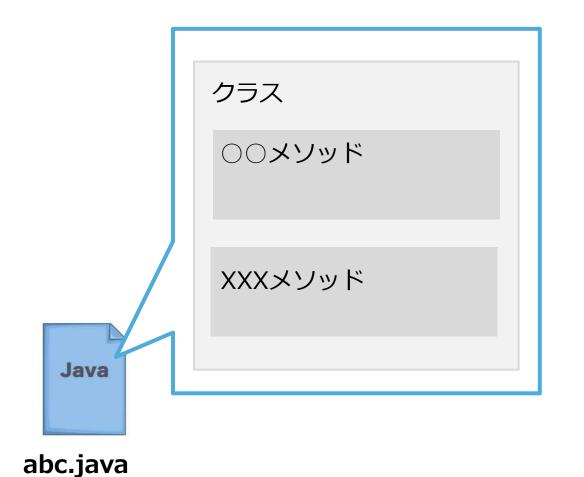
String

参照型(String)の中身の動き



メソッドとは

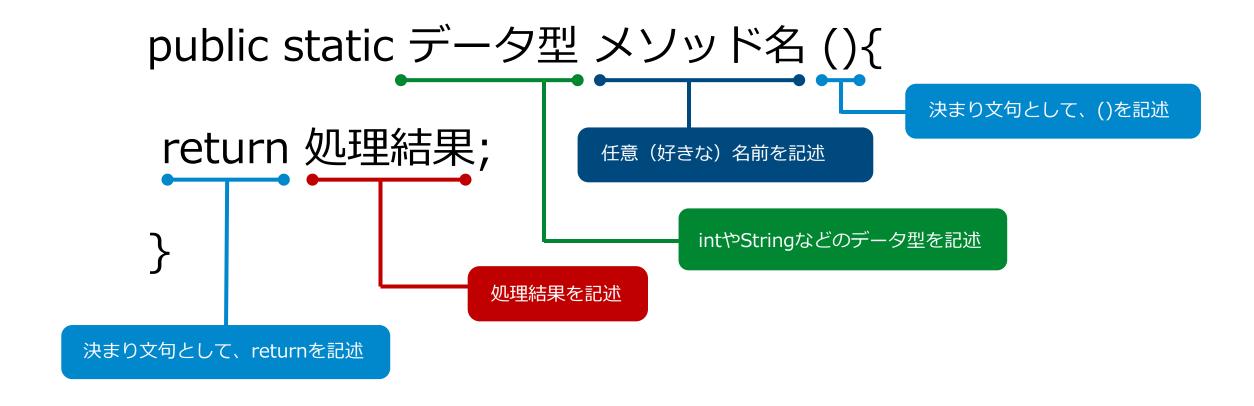
(Javaファイル)



クラスの中には、 メソッドと呼ばれる処理を複数書く ことができる

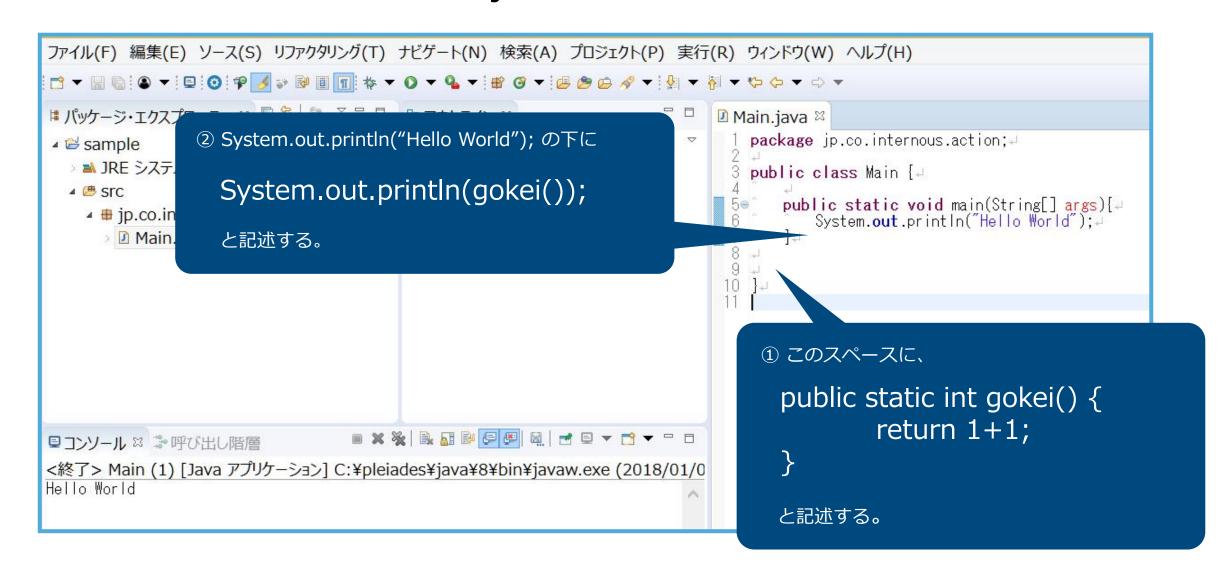
メソッドとは、 JavaScriptやPHPで勉強した関数と 似た書き方をする

メソッドの書き方



メソッドを記述

前のレッスンで作成した「Main.java」の中に 次のコードを記述しましょう。

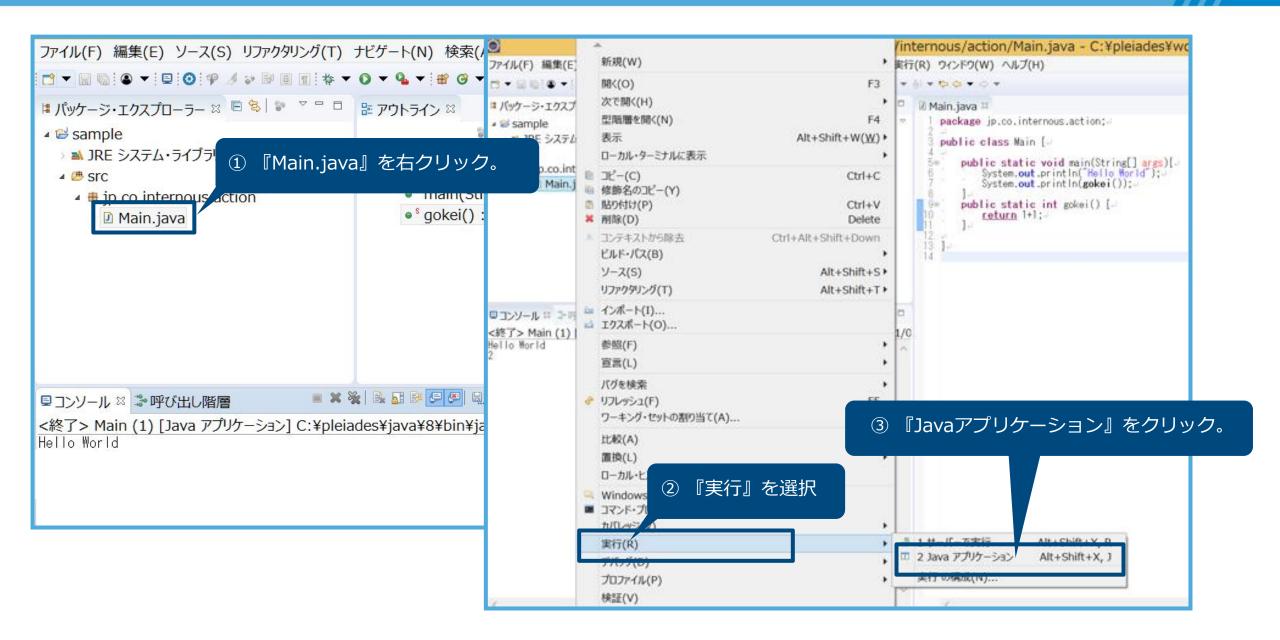


メソッドを記述

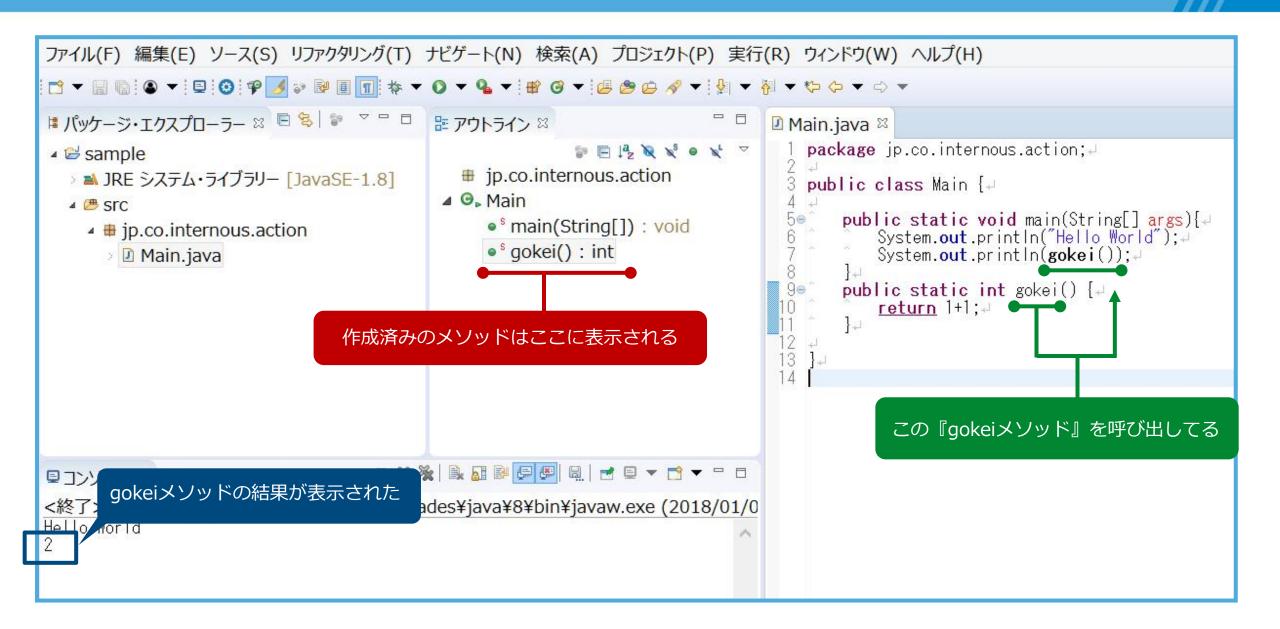
```
☑ Main.java 
☒
      package jp.co.internous.action;

      public class Main [4]
           public static void main(String[] args){
    System.out.println("Hello World");
    System.out.println(gokei());
}
           public static int gokei() {
                 return 1+1;4
```

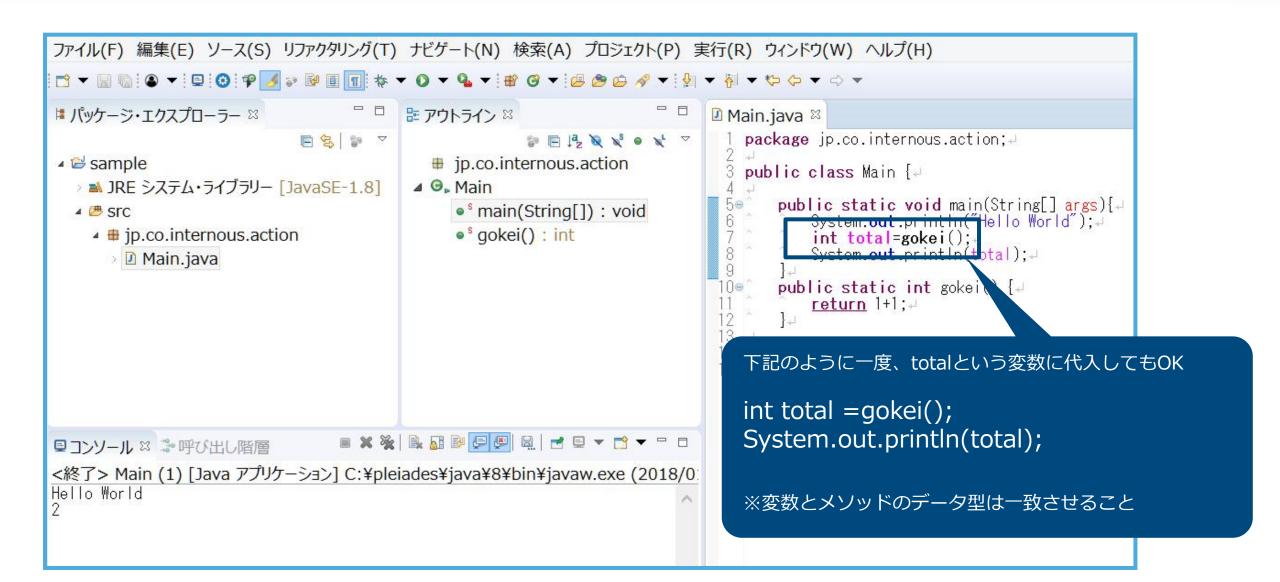
実行



メソッドの実行結果



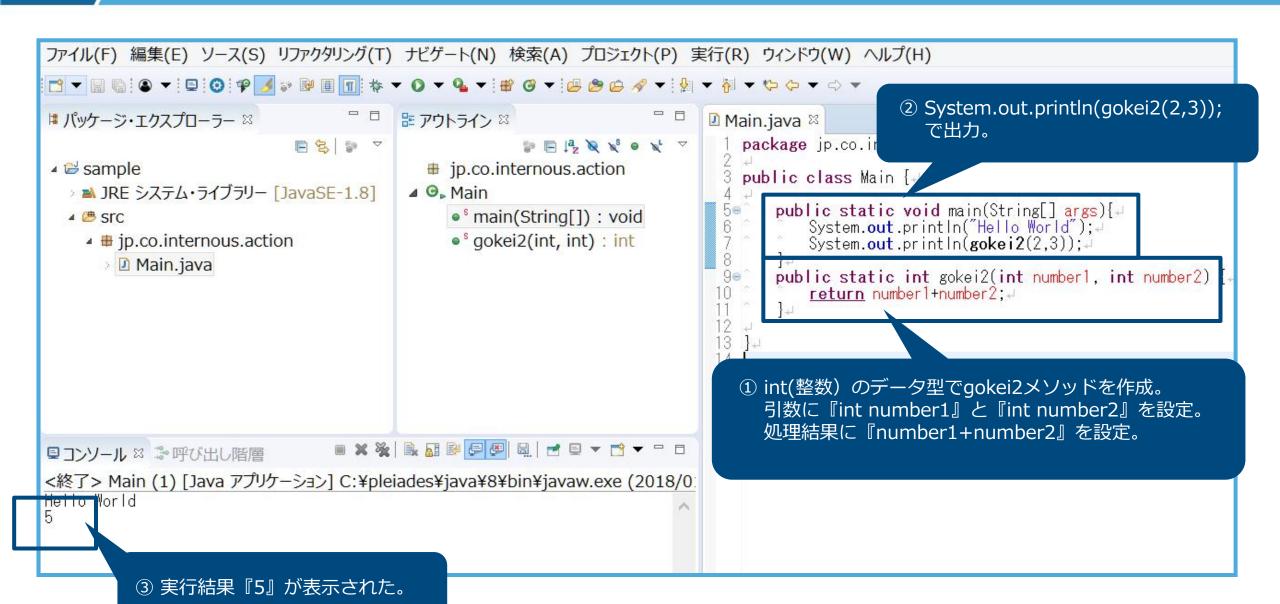
別の方法でもメソッドを出力可能



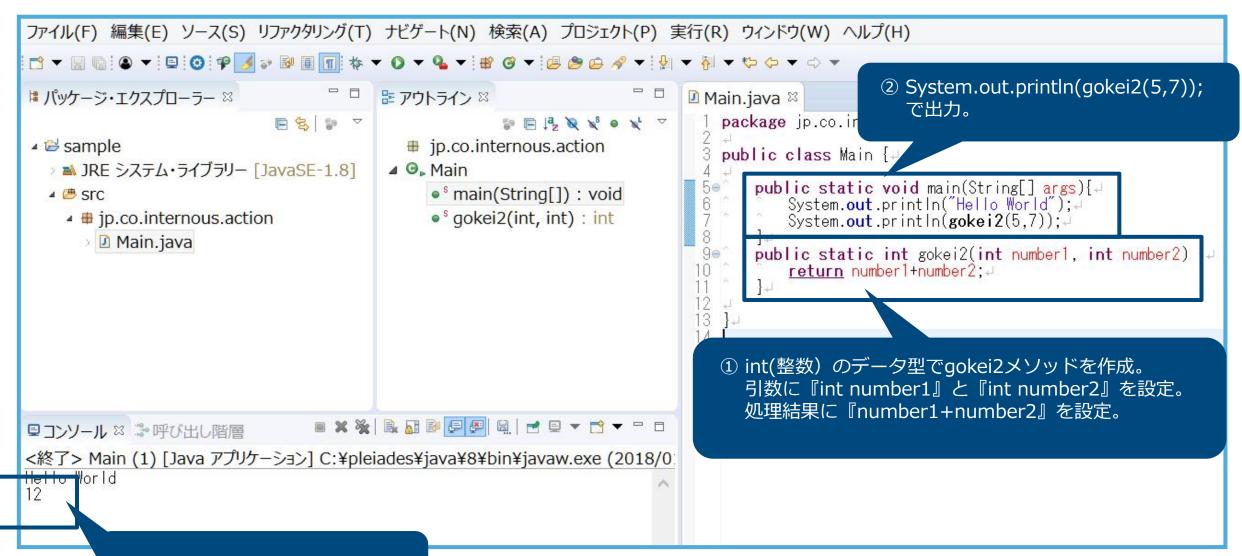
いろいろなメソッド

いくつかメソッドの事例を見てみましょう。

2つの数の合計値①



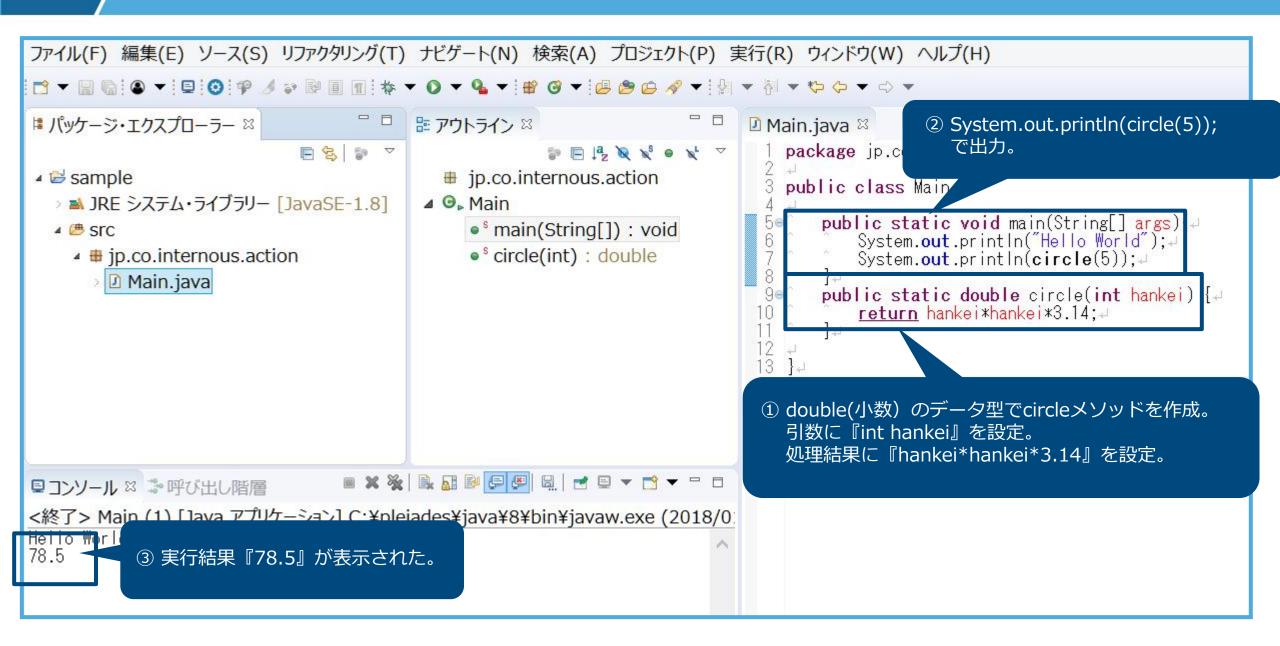
2つの数の合計値②



③ 実行結果『12』が表示された。

参考

円の面積



複数のメソッド

